



# 確かな学力の向上をめざして【5月】

## ■児童生徒理解に基づいた教育活動の充実 ～児童生徒の言動の背景や要因に目を向ける～

学校における教育活動の成果をあげるためには、児童生徒理解に基づいて教育活動を行うことが大前提となります。充実した学校生活や学力の向上など、児童生徒の健やかな成長を後押ししていくために、児童生徒の言動の背景や要因に着目して児童生徒理解を進め、学校全体で共通理解・支援を行うことが大切です。

児童生徒は、学校生活に対する希望を抱きながら、その一方で、何かしらの不安や困り感を抱えて生活しています。適切な解決策が見出せず、困った行動や問題行動として表出してしまうこともあります。しかし、児童生徒は、「自分のことを認めてほしい。」「分かってほしい。」と願っています。

児童生徒の抱える課題の背景や要因がどこにあるのかに目を向け、**共感的理解に基づく児童生徒理解**を心がけて、児童生徒に寄り添った支援につなげていきましょう。



「～してはダメ」「やめなさい」と問題行動を禁止し、その子の行動をコントロールしようとする、叱責のくり返しになり、子どもは自信をなくし、ますます追い込まれることとなります。



困っている子どもを支え、問題行動を起こす必要性を低下させる

困った行動や問題行動は、児童生徒からのSOSです！！

- なぜ問題行動を起こすのか、行動の背景に目を向け、問題行動に結びつく理由を探りましょう。
- 子どもが抱える課題を解決できるようにするために、何ができるのか具体的に考えましょう。

### Point

#### ◆具体的な接し方

□児童生徒のよいところや強みをたくさん見つけましょう。

児童生徒のやる気、指導・支援のヒントにつながります。

□担任が、一番身近なモデルになりましょう。

児童生徒等は担任の話す言葉やふるまいを真似ることが大好きです。

□「なぜ」の視点で児童生徒の言動の背景を探りましょう。

言動のみを評価せず、その背景(障がいの状態や発達段階、前後の事象等)に目を向けます。

意欲の向上



安心感

『特別支援教育の手引き』令和4年3月改定 より抜粋